



(こども版) としょかんだより No.274

2007年

1月号

# わくわく本だな

富山市立図書館

## 今月のおすすめ



= 1・2年  
= 3・4年  
= 5・6年

- あたらしくはいった本の中から、おすすめの本をしょうかいします -

### 「いがぐり<sup>せいじん</sup>星人グリたろう」 (えほん)

大島 妙子 / 作 あかね書房

ぼくんちのにわででっかいいがぐりを見つけた。中から出てきたのは甘栗<sup>あまぐり</sup>そっくりの宇宙人<sup>うちゅうじん</sup>。いがぐり型の宇宙船でやってきたから、“いがぐり星人のグリたろう”って名づけた。その日から、グリたろうはぼくたちの家族<sup>かぞく</sup>になったんだ。



### 「おまもりドラゴン」 山末 やすえ / 作 草炎社

サナは庭で見つけたふしぎな石を大切にしまっていました。ある夜、石が光りだし、そこからみどり色の小さなドラゴンが生まれます。次の日、ドラゴンは給食<sup>きゅうしょく</sup>の時間にあらわれて、サナのきれいなピーマンを食べてくれました。それからドラゴンはサナが困<sup>こま</sup>った時にあらわれて助けてくれます。



### 「うしろの正面」 小森 香折 / 作 岩崎書店

暁彦<sup>あきひこ</sup>ははじめて亡<sup>な</sup>き父親の実家へ行くことになりました。その家では12才を成人式として祝<sup>いわ</sup>う習慣<sup>しゅうかん</sup>があるからです。駅<sup>えき</sup>に迎え<sup>むか</sup>に来た“百目<sup>ひゃくめ</sup>”と名乗る青年につれられて家へむかう暁彦。その途中<sup>とちゅう</sup>で見たのは、こどものような声で『かごめかごめ』を歌う着物姿の大きな男たちでした。



# あたらしくはいった本

えほん



「ぬすまれた月」 和田 誠 / 作 岩崎書店

一人の男が、夜空にながいながいはしごをかけて、月をもって帰りました。男は、まいにち形をかえる月を見て楽しんでいました。ところが、どろぼうに月を入れた箱をぬすまれてしまいます。でもなかはからっぽ！

たてごとになったり魚にのみこまれたり月姿は姿を変え、いろいろな人の手にわたります。

ものがたり



「ひとりじゃないって」 小宮山 佳 / 作 文研出版

魔法の本をなくしてしまったおばあさんは、魔法が使えないのでこまっています。ある日、ネズミが本を持っているのを見つけました。おばあさんは、本を取り返そうとしますが、ネズミに魔法をかけられて、自分が魔法つかいだということをしつかりわすれてしまいました。

## わたしはだれでしょう？

おはなしの主人公あてクイズ



ぼくは、南米のペルーからイギリスへやってきました。  
駅で出会ったブラウンさん一家とくらしはじめます。  
とってもすてきなダッフルコートとブーツをもっているんだよ。  
マーマレードが、大好きなくまです。  
さて、大きなぼうしをかぶったぼくはだ～れだ？

(こたえは、さいごのページにのってます)

## ものがたり



### 「ふしぎな森の転校生」

小川 美篤 / 作 ポプラ社

三年生の小太郎は、ニューヨーク生まれのため、漢字とカタカナが苦手です。日本の学校では“ひらがなくん”というあだ名をつけられて、いつもひとりぼっちでした。今度転校することになった森の中の学校へ、一日早く行ってみました。そこで自分の欠点を楽しそうに話す友だちや忘れものチャンピオンの先生に出会います。



### 「怪盗ゴースト 呪われた首飾り」

きざき かおる / 作 新風舎

ワナナキ警部のもとに届く予告状どおり、どんなものでも見事に盗む怪盗ゴースト。その正体は誰も知りません。今夜盗みだすものは、『呪いの首飾り』といけにえの少女。さあ、怪盗ゴーストの登場です。

### 「月の笛」

武鹿 悦子 / 作 小峰書店

ある晩、母とけんかして家をとび出した潮は、霧立山に登りました。月明かりの中、草原に立つ古い家に入っていくと、悲しげな顔の幽霊が待っていました。幽霊は「盗賊にうばわれた“月の笛”をとりもどすために、千年前の霧立山へ行ってほしい」と潮にたのみます。



## ちしきの本



### 「けもの道 森の写真動物記」 宮崎 学 / 作 偕成社

わたしたちに通学路があるように、動物たちにも毎日通る“けもの道”があります。山のいただきからふもとまでの“けもの道”を、じっくり観察してみましょ。私たちがふだん知らない動物たちの、いきいきしたくらしを探ることができます。

名作をよもう！

今月の1さつ



「小さなスプーンおばさん」 アルフ=プリヨイセン / 作 学研



スプーンおばさんは突然、からだのスプーンくらいに小さくなったり元にもどったりします。小さくてもしっかり者のおばさんは、そのたびに頭を働かせて、ネズミにお部屋をそうじさせたり、フライパンにパンケーキを作らせます。

困難をユーモアでのりこえていくおばさんの楽しいお話。

## 本としょかん まめちしき

その8 < 本のはじまり >



昔、本は何でできていたか知っていますか？

紙が発明される前、文字は竹や木、ねんど板、石やけもの骨に書かれていました。パピルスという草や、羊の皮も使われました。現在、使われているような紙は、1900年ほど前の中国の発明です。やがて、約500年前に活字を使った印刷技術が発明されて、今の本の形が広まっていきました。



クイズのこたえ

“パディントン”です。

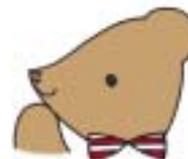
「くまのパディントン」

「パディントンのクリスマス」

「パディントン フランスへ」ほか

絵本もあります。よんでみてね。

(マイケル・ボンド / 作 )



< 編集・発行 >

富山市立図書館

富山市丸の内1丁目4-50

電話 076-432-7272

